

船井情報科学振興財団第十一回留学報告書

大谷直樹

2022 年 6 月

2017 年秋よりカーネギーメロン大学 (Carnegie Mellon University) の Language Technologies Institute (LTI) に在学中の大谷直樹です。自然言語処理 (NLP) の研究をしています。

1 近況報告

3 月に Thesis Proposal を無事に終えたのですが、論文の締め切りピークと重なったこともあって何だか少し燃え尽きてしまいました。週末にピッツバーグ近郊の公園でピクニックするなどして最近はだいぶ活力を取り戻しつつあります。やはり自然は偉大。

最近、ピッツバーグから車で 3 時間ほどの距離にあるエリーという街に夫婦で旅行に行ってきました。エリーはその名が示す通り五大湖のひとつエリー湖に面する都市で、湖沿いにとても綺麗な砂浜があります。湖面にはしっかりと波が立っていて、しかもなぜか良い感じのシーフードレストランが多数あり、すっかり海に行った気分になりました。このような感じで、車をある程度運転できるようになった昨年以來暇があるときはロードトリップをしています。年末にはニューオーリンズまで往復 4,000 キロくらい走ってアメリカの広さを実感してきました (いつか横断してみたい...)



(a) エリー湖。対岸はカナダ。



(b) 昨年末に行ったニューオーリンズの通り。



(c) ピッツバーグのサッカーチームをたまに応援しに行っています。

2 学業

Thesis Proposal

3月に Thesis proposal を行い、無事にパスしました。これは博士論文の予備審査のようなもので、これまでの研究のまとめと今後の予定を発表し、審査委員の先生からフィードバックをもらうというものです。LTI の Proposal はこんな感じの流れでした:

1. 1月から2月にかけて、審査をお願いする先生を指導教員を含む4人の委員を選び、自分で指導教員以外の先生に依頼メールを送る。
2. 2月中旬にそれぞれの先生と個別に1時間程度のミーティングを行う。このときに Proposal で行う予定の発表の下書きみたいなものを見せて軽くフィードバックをもらう。
3. 先生方のスケジュールを聞いて3月末に2時間の発表枠を確保。
4. 同時並行で Proposal を書く。基本的にはこれまで書いた論文とこれから行う予定の研究のアウトラインをくっつけて、それを総括するような導入部を書く。(本来は大きなテーマが先あってこそその個別の研究だが、もうそんなことは言ってもらえない...)
5. 発表の3週間前くらいに書き上げた Proposal を先生方に送る。
6. 45分で発表を行い、それぞれの先生からフィードバックをもらう。45分ですべての研究の詳細を説明するのは無理なので、メインテーマとの繋がりに重きを置いて話す。フィードバックは結構優しい。
7. 先生方だけのディスカッションのあと、合格が言い渡される。

ここから Proposal に書いた研究計画を実行していき(たぶん予定通りにはいきませんが)、来年の初め頃に Defense を行い論文を提出して学位取得ということになります。

Proposal 自体は問題なく終わったのですが、準備をしている間に「自分が本当にやりたかったこと」と「自分ができたこと」のギャップを強く意識してしまい、何だか氣力を失ってしまいました。いくつかの研究はすでにトップ会議で発表しているので、成果という意味ではカウントできるのですが、それに対して全く達成感がないというか、この程度の仕事がトップ会議の査読に通ってしまっただけなのか、という気持ちです。

最近ではやや諦めの姿勢みたいなものが身につくにつつあり、おかげで多少気持ちよく研究に向かえるようになりましたが、一方で自分の論文にも他人の論文にも昔ほど興味も期待もなくなってしまったように感じます。まあ、今まで研究というものに対してロマンを持ち過ぎていただけなのかもしれませんが。

研究

昨年の夏に Microsoft Research で行った研究に関する論文が NAACL という国際会議に通りました。To Do 管理アプリの自動整理やリマインダーといった補助機能を言語処理技術を使って賢くするための基幹技術に関する研究です。上に書いたような経緯で、論文が通ったことに対して特に喜びの感情も何もありませんでした。が、会議がメンターたちのオフィスの所在地であるシアトルで開催されるため、一年越し

でようやく対面できそうです。久々に対面形式で参加する国際会議にもワクワクしています。卒業後に向けた職探しの機会としても活用しようと思っています。

そのほかにも数件の研究プロジェクトを進めています。夏から秋にかけては論文締め切りが少ないので、その間にじっくりクオリティを上げる計画です。淡々とこなしたいと思います。

3 おわりに

Thesis proposal が終わり、卒業までのタイムラインがはっきりしました。今学期途中はちょっと失速してしまいましたが、考え過ぎるのがよくない気がするので、目の前のことに集中して卒業まで走り切りたいと思います。